



株式会社 JCU



証券コード：4975

株主・投資家の皆様へ

第55期

JCU REPORT

年次報告書 (2014.4.1—2015.3.31)

CONTENTS

目で見る連結決算ハイライト

セグメント別業績概況

株主・投資家の皆様へ

トピックス シリコンオリゴマーを
用いた表面処理への応用例

特集 JCUの技術力
FPC(フレキシブル基板)
戦略プロジェクト始動

連結財務諸表

株式の概況 / 会社概要

目で見える連結決算ハイライト（第55期期末）

売上高

19,803 百万円

前期比20.3%増



営業利益

4,606 百万円

前期比69.0%増



経常利益

4,834 百万円

前期比63.1%増



当期純利益

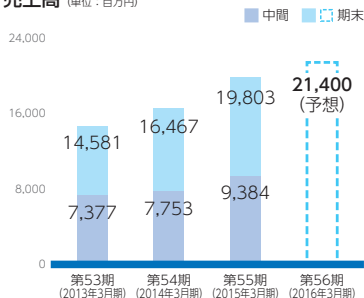
3,204 百万円

前期比81.7%増

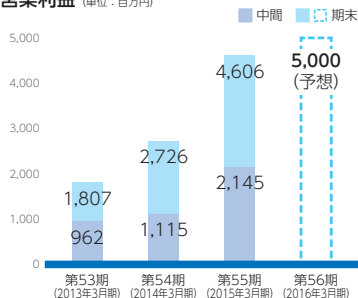


財務ハイライト(連結)

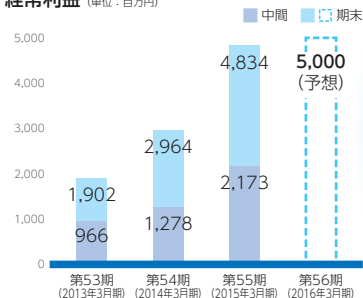
売上高 (単位: 百万円)



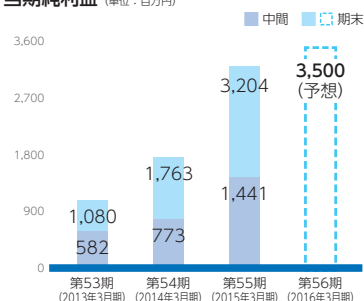
営業利益 (単位: 百万円)



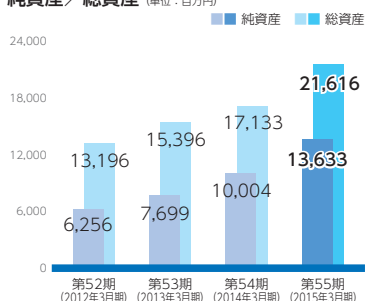
経常利益 (単位: 百万円)



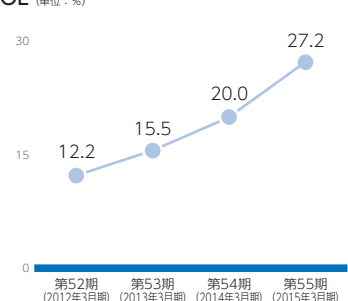
当期純利益 (単位: 百万円)



純資産／総資産 (単位: 百万円)



ROE (単位: %)



装置事業

12.8%

新規事業

6.1%

セグメント別 業績概況

薬品事業

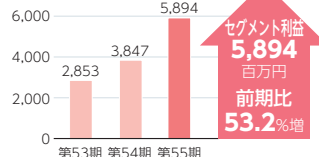
81.1%

薬品事業

■売上高 (単位: 百万円)



■セグメント利益 (単位: 百万円)



当社薬品使用例



自動車部品

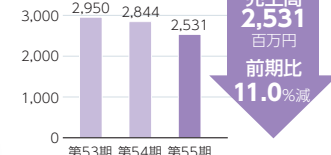


プリント配線板

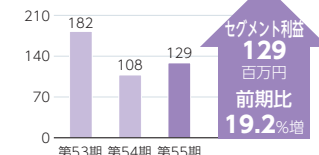
薬品事業では、国内外市場において表面処理薬品の製造販売、関連資材の仕入販売を行っております。もっとも重要なマーケットと考えているのは、一つは自動車や住宅産業であり、もう一つはプリント配線板や電子部品などのエレクトロニクス産業であります。第55期は、中国、台湾、韓国におけるプリント配線板用めっき薬品の販売が引き続き伸び、中国をはじめメキシコ、インドネシアにおいては、自動車用めっき薬品の販売も順調に推移した結果、売上高・セグメント利益ともに前年を大きく上回りました。

装置事業

■売上高 (単位: 百万円)



■セグメント利益 (単位: 百万円)



製品一例



全自動表面処理装置

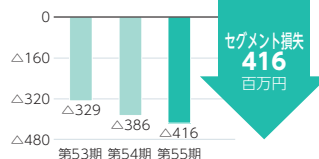
装置事業では、全自動表面処理装置及び表面処理装置の付帯機器の製造販売を行っております。第55期は、一部の顧客において設備投資に前向きな動きが見られ始めたものの、前年並みの受注には至らず売上高は前年を下回りましたが、利益率の高い装置案件を受注したためセグメント利益は前年を上回りました。

新規事業

■売上高 (単位: 百万円)



■セグメント利益 (単位: 百万円)



新規事業一例



太陽光発電設備

新規事業では、プラズマ技術を利用したプリント配線板のエッチング及び洗浄用装置の販売、スパッタリング装置による着色処理、貴金属めっきプロセス薬品の製造販売、コーティング薬品の製造販売、太陽光発電設備の販売を行っております。第55期は、太陽光発電設備の売上計上により売上高は前年を上回ったものの、販売費及び一般管理費が増加した結果、セグメント利益は前年を下回りました。

3期連続の最高益更新を達成

当期の業績と今後について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第55期(2014年4月1日から2015年3月31日まで)の決算につきましては、期初に「3期連続最高益を更新」とお約束しましたとおり、結果として達成することができました。最終的に売上高は198億3百万円(前期比20.3%増)となり、営業利益は46億6百万円(同69.0%増)、経常利益は48億34百万円(同63.1%増)、当期純利益は32億4百万円(同81.7%増)となりました。

当期の業績に最大の貢献をしたのは、スマートフォン及びモバイル端末向けの薬品の売上増によるものであります。特に米国アップル社の 아이폰6 の売り上げが大きく伸びたことが、中国スマートフォンメーカーを刺激し、競って販売拡大に動いたと考えております。一方、自動車業界も、すでに発表された業績は軒並み最高益を更新しており、国内市場や中国市場は低調であったものの、米国、欧州市場が活況のため大きな利益を上げることができたものと思われます。当社も自動車部品向けの薬品、装置を販売するため、直接米国に乗り込まなくて

はならないと考えております。しかし、米国市場は事前のマーケティング調査で、なかなか新規参入が難しいとの判断により、新市場を開拓するためには新しい技術を米国で開発実証する必要があると考えて、デトロイト近郊に研究所とパイロットプラント(実験用のテストライン)を建設することとしました。2017年から始まるEUの化学物質規制に対応したクロム酸不使用の前処理剤の開発から着手しようと考えています。

なお、プリント配線板については、今年はフレキシブル基板の需要が旺盛で、中国、台湾メーカーはその技術の取得に熱心であります。フレキシブル基板は、硬くて曲がらないボード状の硬質基板(リジッド基板)とは異なり、その名のとおり、極めて薄く自在に曲げることができるため、スマートフォンをはじめとした電子機器のわずかな隙間や立体的な配置が可能で、その需要はますます高まっております。フレキシブル基板は厚み12 μ mから50 μ mのフィルム状の絶縁体「ベースフィルム」に銅箔を張り合わせて製造されます。しかし、銅箔を薄くするには限度があり、エッチングによって配線幅をよ

り微細にするため、張り合わされた銅箔全体を薬品で溶解し薄くして微細配線に対応することが行われています。当社では、このような無駄なことをせず、銅箔を用いることなくベースフィルム上に銅を薄くめっきする方法を開発しております。この技術には、優れためっき薬品と装置の開発が不可欠です。このため実機大の装置と薬品の開発を急ぐことといたしました。また、収益の柱となったフィリング用薬品の拡販にも従来以上に努力する所存でございます。



米国進出のために設立した現地法人の増資が約5億円、フレキシブル基板関連への研究開発投資が約3億円と、第56期（2015年4月1日から2016年3月31日まで）の業績は投資先行型となるため株主、投資家の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



2015年6月

代表取締役会長兼CEO 粕谷佳允

表面技術協会の第130回講演大会「第16回優秀講演賞」を受賞

シリコンオリゴマーを用いた表面処理への応用例

開発の背景

当社の新規事業の取り組みの中で、亜鉛めっきの耐食性向上を目的に、コーティング剤を開発し、市場展開しています。従来のコーティング剤に比べ、薄膜でありながらも、優れた耐食性を有しており、自動車メーカーからも高い評価を受けております。

これらの優れた特性は、自社開発した『シリコンオリゴマー』により導き出されています。従来の『シリコンオリゴマー』は、その性質上、水との相性が悪く、水を含まない有機溶剤やアルコール系とする場合がほとんどでした。当社が開発した『シリコンオリゴマー』は、水の共存下においても安定であるため、水系のコーティング剤に使用しても、優れた耐食性を付与することが可能となりました。

シリコンオリゴマーの応用

自社開発した『シリコンオリゴマー』の特性を確認する中で、反応触媒として使用する金属種を変えることで、無電解めっき（無電解ニッケル、無電解銅めっき等）に対して反応性を付与することが可能であることが分かりました。本技術を用いることで、各種素材に対して前処理を行わずに、コーティング組成のみで密着性が得られる自己触媒皮膜を提供できると考えております。これは、今までめっきが難しいとされていたガラスをはじめ新素材に対してのめっきが可能となると期待されております。

この技術が高い評価を受け、今年3月には、表面技術協会から優秀講演賞を受賞しました。今後は、この技術の工業化を推し進め、新たな表面処理方法の確立を目指します。

受賞者感想

コーティング事業は、従来めっきをテーマとしてきた当社にとって新規事業となります。ノウハウの少ない中での開発と言う事もあり、多難な状況でしたが、多種多様な開発に従事している社内の技術者からの支援があり、本賞を受賞することができました。

今後、皆様の期待に応えるべく、コーティング処理と言えばJCUと言われるよう、更なる開発に力を入れてまいります。

「第16回優秀講演賞」受賞（2015年3月、於 関東学院大学）
JCU 総合研究所 佐土原 大祐



FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト始動

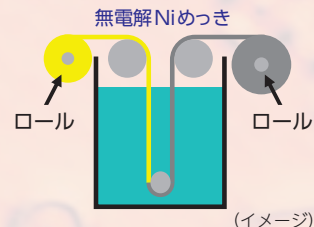
はじめに

スマートフォンに代表されるモバイル情報端末などの小型化、高性能化に伴い、薄く柔軟性があり折り曲げが可能なフレキシブル基板(以下、FPC)の需要が高まっています。それに伴い、FPC自体の軽薄短小化、微細な回路形成、低コスト化が強く望まれています。現在、FPCは安価なラミネートタイプやキャストタイプのフレキシブル銅張積層板(以下、FCCL。FPCを構成する主要部材)が使用されていますが、微細な回路形成が困難で、かつ薄型化が難しく、市場から要求されるFPCの軽薄短小化に応えるためには、メタライズタイプのFCCLを用いる必要があります。しかし、FCCLを製造する際、素材のフィルム上に薄い金属膜を形成する工程で使用されるスパッタリングのコストが高くFPC自体も高価となってしまうため、より安価な材料、製造プロセスの出現が望まれています。

当社開発「エルフシード」

当社は高価なスパッタリング技術の代替として、素材のフィルム上にめっき処理で金属膜を形成する薬品プロセス「ELFSEED(エルフシード)」の研究開発を進めていました。この結果、素材のフィルムを粗化する(表面を荒らす)ことなく平滑面に密着強度の高いめっき皮膜を得る技術確立しました。本技術の特長は、銅めっきの厚さをコントロールでき、高速伝送特性に優れ、微細化にも適していることです。また、フィルムから生産することができるため、高機能FPCの低コスト化が可能となりました。

ロール to ロール式めっき装置



今後の展開

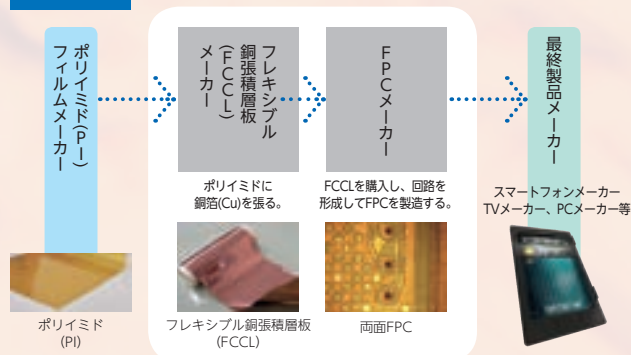
薬品の技術はすでに完成しましたが、FCCLの生産性向上にはロール to ロール式の装置の開発が必要となります。当社は今年4月、薬品と装置をセットで展開するため、社内にFPC戦略プロジェクトチームを立ち上げました。本プロジェクトチームは、トップ主導で社内の関連する部門から多岐に亘る人材を集め、早期の事業化を目指しております。今秋を目処に装置を完成させ、顧客へのPRを展開したいと考えております。

すでに顧客からの問い合わせもきており、期待度が高い技術であると確信しています。今後とも当社の活躍にご期待ください。

FPCの 商流

ターゲット

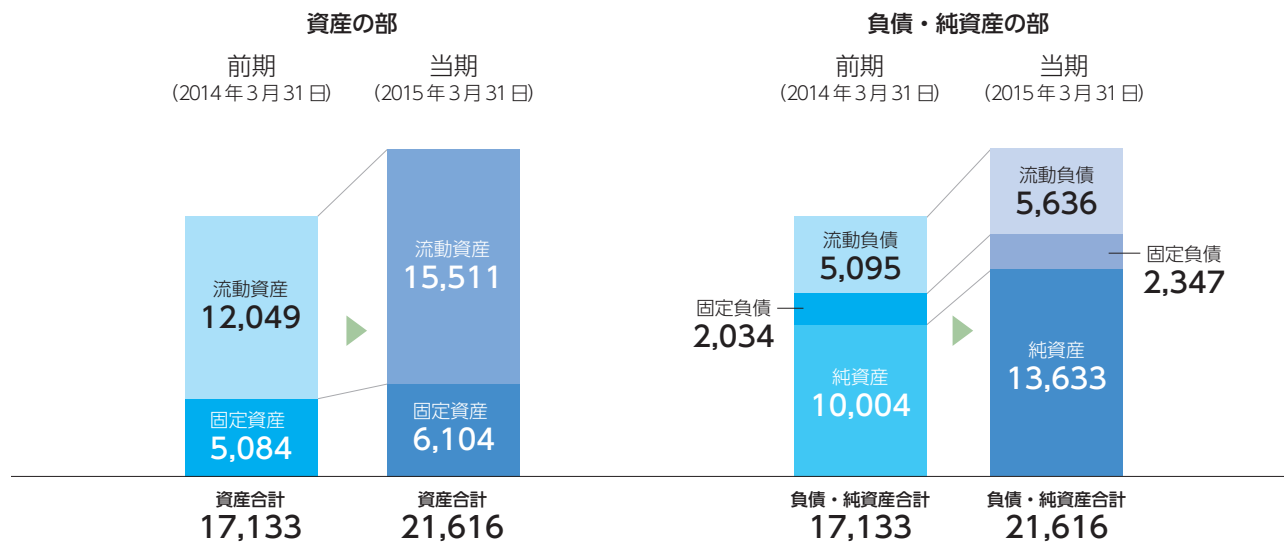
- FPCメーカーのFCCL工程の内製化(コストダウン、軽薄短小化)
- FCCLメーカーへの新工法提案(コストダウン、軽薄短小化)
- パッケージ基板へFPC採用(軽薄短小化)



連結財務諸表

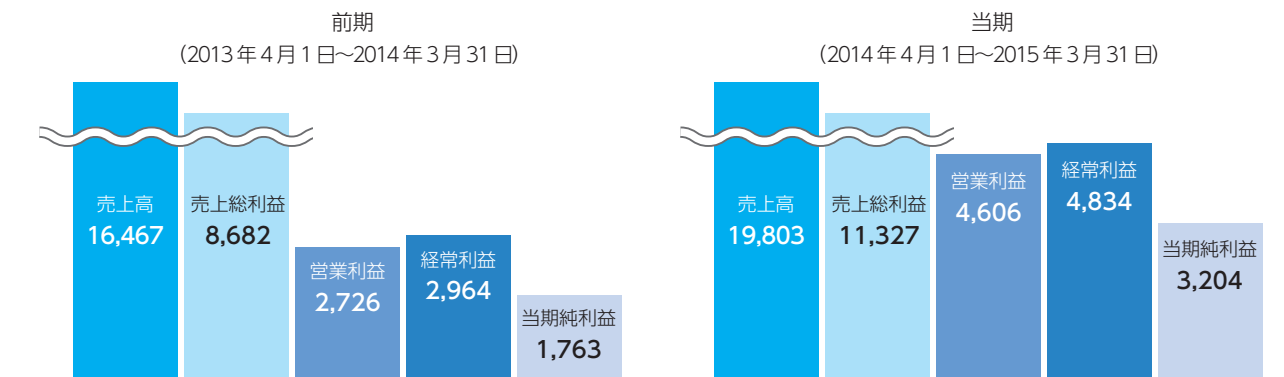
連結貸借対照表

(単位:百万円)



連結損益計算書

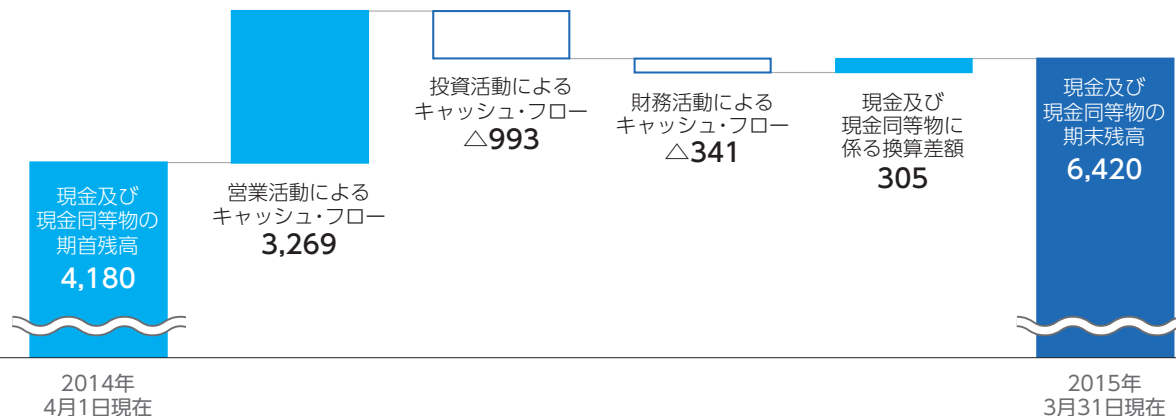
(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当期
(2014年4月1日～2015年3月31日)



財務のポイント

● 資産

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ4,482百万円(26.2%)増加し、21,616百万円となりました。流動資産は、主に現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加等により3,462百万円(28.7%)増加し、15,511百万円となりました。固定資産は、主に有形固定資産の取得により1,020百万円(20.1%)増加し、6,104百万円となりました。

● 負債

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ853百万円(12.0%)増加し、7,983百万円となりました。流動負債は、主に未払法人税等の増加により541百万円(10.6%)増加し、5,636百万円となりました。固定負債は、長期借入金の増加等により312百万円(15.4%)増加し、2,347百万円となりました。

● 純資産

当連結会計年度末の純資産合計は、主に当期純利益の計上及び為替換算調整勘定の増加により、前連結会計年度末に比べ3,628百万円(36.3%)増加し、13,633百万円となりました。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が前期と比べ1,996百万円(70.4%)増加し、営業活動によるキャッシュ・フローは3,269百万円と、前期と比べ収入が1,552百万円(90.4%)の増加となりました。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の減少による収入は増加しましたが、主に日本や韓国での設備投資に伴う有形固定資産の取得による支出が増加したことにより、投資活動によるキャッシュ・フローは△993百万円と、前期と比べ支出が317百万円(47.0%)の増加となりました。

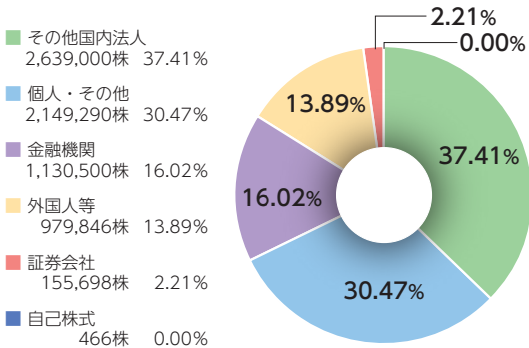
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額は増加しましたが、長期借入による収入が生じたこと等により、財務活動によるキャッシュ・フローは△341百万円と、前期と比べ支出が166百万円(32.7%)の減少となりました。

株式の状況

発行済株式総数..... 7,054,800株
株主数..... 5,046名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	400,100	5.67
日本パーカライジング株式会社	227,000	3.21
日本高純度化学株式会社	220,000	3.11
粕谷佳允	209,400	2.96
荏原実業株式会社	200,000	2.83
株式会社スレイイ	200,000	2.83
JP MORGAN CHASE BANK 380634	200,000	2.83
日本化学産業株式会社	186,000	2.63
神谷理研株式会社	160,000	2.26
栄電子工業株式会社	160,000	2.26

(注) 持株比率は自己株式(466株)を控除して計算しております。

商号 株式会社JCU(2012年10月1日より)
本社所在地 東京都台東区東上野四丁目8番1号 TIXTOWER UENO 16階
設立 1968年(昭和43年)4月1日
資本金 1,176,255,128円

- 国内
総合研究所 生産本部 大阪支店 名古屋支店
九州営業所
- 主要な連結子会社
JCU (上海) 貿易有限公司
JCU (THAILAND) CO., LTD.
台湾JCU股份有限公司
JCU KOREA CORPORATION
JCU VIETNAM CORPORATION
JCU (深圳) 貿易有限公司
銀座鈴蘭堂化粧品股份有限公司
PT. JCU Indonesia
JCU科技(深圳)有限公司
JCU(北京)貿易有限公司
JCU AMERICA, S.A. DE C.V.(メキシコ)
JCU INTERNATIONAL, INC.(アメリカ)
JCU CHEMICALS INDIA PVT. LTD.
- 関連会社
JCU Nanomate株式会社

役員一覧 (2015年6月26日現在)	代表取締役会長兼CEO 代表取締役副会長 代表取締役社長兼COO 専務取締役専務執行役員 常務取締役常務執行役員 常務取締役常務執行役員 常務取締役常務執行役員 取締役常務執行役員 取締役常務執行役員 社外取締役 社外取締役 社外監査役 社外監査役 社外監査役 執行役員 執行役員 執行役員 執行役員 執行役員 執行役員 執行役員	粕谷 佳允 小澤 一 君 二 中 憲 村 隆 村 幹 林 男 小 司 林 治 大 久 新 徳 縄 秀 高 正 大 寛 伴 峰 高 井 市 川 山 本 永 井 木 村 西 方 萩 原 谷 野 粕 谷 鈴 木 林 英	谷 隆 澤 二 塚 男 村 司 林 治 森 久 大 徳 新 秀 縄 正 高 寛 大 夫 伴 治 高 充 市 朗 山 一 本 正 永 昌 木 順 西 秀 萩 樹 谷 壘 野 多 谷 智 木 雄 林 彦
------------------------	---	---	---

従業員数 連結504名(6名) 単体252名(6名)

(注) 臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 (http://www.jcu-i.com/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話 お問合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金受 取り方法の変 更等)	お取引の証券会社等 になります。	みずほ証券 本店、全国各支店及び営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお 取扱できませんのでご了 承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び 全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

ホームページのご案内

ホームページでは、当社の企業情報をはじめ事業情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。



トップページ



IRページ

J C U

検索

<http://www.jcu-i.com/>

株

主

ひ

ろ

ば

株主優待について

当社の株主優待品は3月31日現在単元株以上保有の株主様へ右記のとおり、「ギフトカタログ」をお届けいたしております。



100株以上200株未満
2,500円相当の品
アクアマリン



200株以上1,000株未満
5,000円相当の品
クリスタル



1,000株以上2,000株未満
10,000円相当の品
ダイヤモンド



2,000株以上
15,000円相当の品
ラピスラズリ

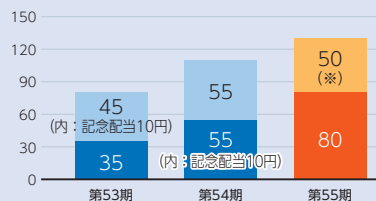
株主還元について

利益配分に関する基本方針

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために適正な自己資本比率を維持しつつ、業績の状況に応じて配当性向等を勘案し、安定した配当を実施することを基本方針としております。内部留保資金の用途につきましては、今後の事業活動並びに経営基盤の強化に有効活用していく方針であります。

※2014年10月1日に株式分割を実施したため、分割前の1株あたりに換算しますと100円となります。その結果、年間配当金は株式分割前換算で180円となり前期に比べ実質70円の増配となります。

配当金 (円) ■ 期末 ■ 中間



株式会社 JCU

〒110-0015 東京都台東区東上野四丁目8番1号

TIXTOWER UENO 16階

TEL: 03-6895-7001 FAX: 03-6895-7021

<http://www.jcu-i.com/>

